

令和5年度 鶴居村総合教育会議 議事録

日 時 令和6年3月18日(月) 午前10時30分～午前12時00分

場 所 鶴居村総合センター第1研修室

出席者 (構成員)

村 長 大石 正行

教 育 長 村上 明寛

教育委員 高橋 文雄

教育委員 藤原 千晶

教育委員 坂本 和也

(事務局)

副 村 長 長尾 法明

総 務 課 課長 佐藤 直人 課長補佐 新木 康司

企画財政課 課長 高松 一哉

管 理 課 課長 佐藤 大輔

社会教育課 課長 小原 利也

欠 席 者

会議次第

1 開 会

2 村長挨拶

3 議 事

・部活動の地域移行

4 そ の 他

5 閉 会

1. 開 会

(総務課長)

お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から令和5年度鶴居村総合教育会議を開催いたします。会議の開催にあたりまして、大石村長より挨拶を申し上げます。

2. 村長の挨拶

(大石村長)

皆さん、おはようございます。時節柄、何かとお忙しいところ、本日、こうしてお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

日ごろから教育委員の皆様には、教育行政の推進をはじめ、村政の各般にあたりましてお力添えをいただいていることにこの場をお借りして厚く感謝を申し上げます。

今日のこの総合教育会議は、今回で9回目の開催となっておりますけれども、この会議の役割としましては、教育委員会と我々行政側がしっかりと連携を図りながら、今日の教育課題、あるいは行政課題に関わることなどを共有させていただきながら、行政の執行に当たっていくということから毎年開催しているところでございます。しっかりと教育委員の皆様方と連携を図りながら、教育行政の推進、そして様々な課題を共有していきたいというふうに考えているところでございます。

先般、議会が終了したところですが、その中で令和6年度の予算も決定をしたところでございます。総額でおよそ1割程度の予算の減額になっているところですが、これは来月村長選挙があることで主だったものについては6月の肉付け予算ということになるため、当初予算につきましては骨格計上として継続的な事業予算を計上したところでございます。

教育関係には大きな予算を計上しておりまして、鶴居中学校の大規模改修は2年度目を来年度に迎えるところであり、しっかりと6年度の完成に向けて作業を進めていかなければならないと思っております。当初の計画からは若干工事の遅れは見られるものの、残す1年でしっかりと工事完了ができるものと思っております。完成後は素晴らしい教育環境のもとで子供たちが学んでいけると思っております。

また、来年3月には幌呂小学校、中学校が同時に閉校するというところで、基幹集落である幌呂地域の学校が一挙になくなるということは、地元地域や村にとりまして非常に大きなことであるわけですが、鶴居小学校、鶴居中学校に統合された暁にはあらためて鶴居村の新たな教育環境の充実というところに取り組んでいかなければならないと思っております。

現在、地元におきましては、協賛会も組織されて、閉校、そして統合に向けて、準備が進められているところでありますので、教育委員会そして村としても、しっかりとその取組が進められるよう協力をしていきたいと思っております。

昨年のこの会議につきましては、部活動の地域移行、そして幌呂小中学校の今後のあり方

というところで議論をいただいたところですが、昨年に引き続いて部活動の地域移行が大きな課題となっていることから、これについてしっかりと取組を進めていかなければならないということですので、今回の会議につきましても同じく議題として取り上げておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

限れた時間の中ではございますけれども、地元の子供たちが未来に向けてしっかりと成長できる、そういう環境を作っていかなければならないなと思っておりますので、今日は忌たんのないご意見、ご指摘をいただけるようお願いしたいと思います。

大変雑駁ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 議事等

(総務課長)

それでは、本会議の運営につきましては、鶴居村総合教育会議設置要綱に基づいて行ってまいります。要綱第4条第1項の規定に基づき、この後は大石村長が議長となりまして会議を進行いたします。大石村長よろしくお願いいたします。

・部活動の地域移行

(大石村長)

それでは、議事の1番目であります部活動の地域移行につきまして、村上教育長から説明をさせていただきます。その上で議論をさせていただきたいと思っております。

(村上教育長)

それでは、私の方から説明させていただきます。お手元に資料も配っております。また、こちらでスライドの方も使ってご説明したいと思います。

昨年度もこのテーマでお話しさせていただいて、昨年は国でこのような動きが出ているというところで、鶴居村に落とし込むとなかなか課題が多い、という状況を共有させていただきました。

その後、昨年の秋以降、国の方の考え方も固まり、ガイドラインが示され、村内でも検討会議を立ち上げていろいろご意見もらったりアンケートをとったりしたところでは、その辺を整理して、改めて現状をお話させていただいた上で、鶴居村に落とし込むと具体的にどのような形になるか、またその課題についてご意見をいただければと思います。

それでは、説明していきます。初めに、国の方の動きですが、昨年、国の方で部活動、それからこれからの地域クラブ活動のあり方について総合的なガイドラインが作られました。このガイドラインについて動画を使って説明してもらおうと思っておりますので、ご覧いただければと思います。

(動画)『運動部活動改革～「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の策定～』(<https://www.youtube.com/watch?v=prUQjfP-GTk>)

(村上教育長)

動画では運動部活動改革の方ではありますが、文化部については運動部のところをそのまま文化部に置き換えれば全く同じ動きになります。

説明がありましたが、ポイントとしては少子化が進み、子供たちがスポーツ・文化に親しむ機会を学校の部活動だけで確保するにはなかなか難しい時代となったので、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行が必要不可欠な状況です。といったことを中心に据えた説明でした。

部活動の地域連携という言葉と、地域クラブ活動というものが出てきましたが、部活動の地域連携というのは、学校の部活動を地域の方にお手伝いしていただくというところで、目標に向かっての一段階であり、その次の段階が地域クラブ活動ということで、部活動は学校から地域の方に移行していくというふうになっています。

鶴居中学校はそういう意味では部活動の地域連携というところを、陸上部でアスリートクラブの方にお手伝いをいただいたり、吹奏楽部で地域のプロの方にご指導お願いしたりという形で部活動指導員を入れているところで、途中経過の取り組みとして試行錯誤しながらやっている状況でした。

まずはそういった準備をして、令和5年から7年の3か年かけて改革を進めてください。まずは休日を地域クラブ活動に移行していただきたいというのが国の考え方で、北海道も同じ考え方となっています。

地域クラブ活動は法的には社会教育の位置づけになっております。今、動画で説明のあった方向性やイメージがおそらく全国で一番うまく進んでいるのが、長崎県長与町というところになります。この取り組みがおそらく理想だと思うので、部活動の地域移行が進むというふうになりますというのを、まず見ていただくことでイメージが湧くと思いますので、見ていただければと思います。

(動画)『部活動の地域移行 [長崎県 長与町] ～生涯スポーツ社会の実現に向けた「地域スポーツ活動」への進化～』(<https://www.youtube.com/watch?v=HdaIh2cS6Ho>)

(村上教育長)

この長与町というところは、条件的にもすごく恵まれた立地条件もあって、人口4万人ほどで、中学校3校、その3校が4 km以内にあり、生徒たちの移動距離、時間が短いので集まりやすいといったところもあります。生徒は全体で1000人超ということなので、サッカー一部なんかは1校あたり7人とか9人の学校もあるけど、3校集まれば20人30人のチームとしてやっていける。何より、長与町には総合型地域スポーツクラブがあり、そこが受け皿

となっているため、すんなりと移行ができたのかなというふうに思います。

その総合型地域スポーツクラブというのは、地域の方が自主的に作って運営しているスポーツクラブで、いろんな種目をいろんな方々がやっているということで多項目多志向に初心者からトップレベルまで対応しているクラブということで、そういった下地があった上で、指導できる方が、学校の先生約 20 名、地域の方約 70 名、全体で 90 名ほどいて、ローテーションを組んで 1000 人の子供たちの指導に携わっている。そういうふうに上手くいっている事例かと思えます。

この理想系に近づくという方法もありますが、なかなか、それぞれの地域の状況も違いますので、この姿が 100% というわけではないのですが、部活動の地域移行の趣旨や方法としては非常にうまくいっている例なので、これを参考にして各地で今取り組んでいるというところです。

地域クラブ活動への移行に向けて、鶴居村の取組、教育委員会で今までやってきたことを簡単にご説明しますと、令和 5 年の 6 月に検討会議ということで、体協の方ですとか、保護者や、PTAの方、それから各少年団の代表等に入っていて、検討会議で検討を始めています。

そこではアンケートなどをもって、どんな活動をしたいのかといったニーズの調査も行いました。来週の教育委員会議の時に確定させてもらおうと思っているのですが、地域推進計画の準備をするということで、今年 1 年活動してきたところです。

推進計画というのは、地域移行の進め方や基本的なスケジュール、それから課題の対応方法などをまとめたものです。

中身の方を若干説明させてもらいますと、国の動向は、動画で見ていただいたとおりでございまして、令和 5 年から 3 年間で推進期間に位置づけて、段階的に地域移行を進める。北海道も全く同じ方向性でいます。ですので、鶴居村としてもこの国のガイドラインと道教委の方向に沿って準備して、令和 8 年度から休日の学校部活動を地域クラブ活動に移行するといったことを目標に検討を進めるということで、検討会議で話し合いをさせてもらっています。

検討を進めるにあたっては、どんなニーズがあるのか、学校との連携をどうするか、それから休日、平日をどのようにやっていくのか等をこれから検討していくことになります。大まかなスケジュールとしては、今年から来年にかけてどこが受け皿になるのかという運営団体、実施主体の決定、そして指導者をどうやって確保するか、こういったところを来年までに大まか目星をつけたいというふうに思っています。

並行して、一部で休日の試行、実施を進めたいということで、鶴居中学校の陸上部をアスリートクラブのほうで休日の部分をやっていただけるか、というところの調整をしているところですので、年の途中で試行的に陸上部のほうでやってもらおうかなと考えています。7 年度にはさらに吹奏楽かテニスかどちらかにいろいろ試してもらい、8 年度から移行していくという二段構えのような感じで考えております。

これからの検討課題としては、受け皿と指導者の確保と活動場所、成果発表として大会にどうやって出るか、住民の方や保護者の方の理解をどう進めるか、費用負担といったことです。特に受け皿、運営団体、実施主体の整備の問題と指導者の確保、それから費用負担の軽減というのが一番の課題かというふうに思っています。

地域の受け皿について、長与町では総合型地域スポーツクラブでしたが、全国の取組事例を見ると、市町村教育委員会直営で行っているというところもあります。また、スポーツ協会や文化連盟等といった団体がやってくれているところもありますし、都市部では民間事業者がやっているといったところもあります。

指導者は、既存の団体の選手や指導経験のある方、コーチという方からお願いするのと、部活動をやりたいという先生方もいらっしゃるので、そういった方もお手伝いしてもらおうということになるのかなというふうに思っています。

費用負担は、現在は学校の先生が指導しているので、当然指導にはお金もかからず実費だけ部費として集めているという形になりますが、地域でやっていくとなると指導者に対して報酬等の費用負担が生じてくる、この費用負担が大きくなると経済的な理由で部活動に参加できないという家庭も出てくる恐れがあるので、そのようなことが起こらぬよう検討していかなければならない、大きく言ってこの3つが課題かなというふうに思います。

先ほど全国の事例ということでお話ししましたが、今実際に取り組んでいる国の実証事業のようなものがありまして、事例を見ると多くは市町村が運営するか、地域のスポーツ団体が運営するといったところ、大体この2種類に分かれており、市町村の中でも自前で全部行ったところと新たに団体を作ってやっているところの2つのやり方があります。

団体運営では、先ほどの長与町のように総合型地域スポーツクラブというところ、民間のスポーツ事業者に運営してもらっているところが多くなっていますが、小規模町村となると、どうしても市町村の運営形が多いかなというふうに思っています。なので、この辺を中心に考えていかなければならないであろうというふうに思っていたところです。

管内で厚岸町と標茶町は、国の実証事業で補助金をもらって先行実施をしています。6年度からスタートするというので、管内的にはこの2町がトップランナーみたいな形で検討を進めています。

厚岸では今年準備して、来年度からこの厚岸総合クラブJOYというのを新たに作り、総合型地域スポーツクラブとしてそこで運営してもらおうこととし、その団体を立ち上げたということです。しかし、事務局は教育委員会に置くこととなっており、総合型スポーツクラブを受け皿とし運営してもらおうと言いつつも、実質的には教育委員会主導ということになっております。クラブの運営や指導者の確保等は教育委員会の事務局でやりますといったような仕組みで、先行実施しているということです。

このような形で厚岸ではいくつかの中学校がこの総合クラブによって1つのチームになって練習するっていったことが4月からスタートします。しかし、学校間の距離が結構ありバスで移動となりますが、運転手不足もあって課題が多いということでした。

標茶の方も同様に先行実施を来年度から行うことになり、総合型地域スポーツクラブではなく、教育委員会が任意団体を作り運営していくというやり方です。6年度には教育委員会が事務局をし、令和8年度までに新たな団体を作ってそこで運営してもらうことにしているそうです。

指導者は、現在、部活動の指導をやってくれている方で、こうした方を中心にこれから団体を作っていくというふうにお聞きしています。ここも同じように教育委員会が事務局になっていくといったところでもあります。

少し話題変わりますが、鶴居村の児童生徒の推移ということでグラフにしました。現在の令和5年は中学校で70人ぐらいの生徒数ですが、もう2、3年すると、学年10人時代がやってくるので、30人、20人の中でどうやって部活動というか地域クラブ活動をやっていくかとなると、なかなか中学校単独でも難しく、小学生や大人と一緒に活動するといったことを考えていかないと難しいかなというところなんです。こういった生徒の減少も、年頭に置きながら検討していくというふうにはしています。

それを踏まえて鶴居村に置き換えた時にどうなるかというのを、あくまでも想定のリシミュレーションのような話ですが整理させていただきました。

鶴居村における地域クラブ活動の受け皿は市町村の経営型を想定して、教育委員会で事務局を行うのを前提に想定すると、このような体制になろうかというものです。

教育委員会の中に、地域クラブ活動推進室のようなものを作り、そこに教育委員会職員が兼務して、さらに専門のスタッフを雇わせていただく。そういった時に、退職教員なんかに携わっていただくと、学校現場についてよく知っているのもやりやすいかなということも考えています。

実際の業務については、まず指導者の確保、そして練習場所にその指導者を派遣するための連絡調整がメインの仕事になると思います。急遽指導に行けないということもあると思うので、そういった時の生徒の見守りも含めて対応していかなければならないだろうと思います。また、活動場所の調整や学校との連絡調整、スケジュール管理、大会に参加の手続きから、引率の確保、保護者との連絡調整、安全管理はもちろん、保険の加入や、生徒の移動手段的確保、団体の運営費、指導者の研修、こういったことが役割として出てくるであろうといったところで、これらは全て一つ一つ解決していかなければいけない課題かというふうに思っています。

地域クラブ活動として、今、中学校で3つの部活動がありますが、これをそのまま地域クラブ活動へ休日の活動を移行したとすると、例えば陸上競技は、地域でやるのは土日と祝日、場所は中学校のグラウンドや体育館を借りて行い、アスリートクラブだとか教師だとか実際に競技経験者に指導をお願いするということになろうかと思います。

また、ソフトテニスも同じようになりますが、村のテニスコート使わせてもらいます。指導者が先生以外では見つからないかというところが一番厳しいと思っているところです。こういったところで、民間を含めてどんな方に入ってもらうかが課題です。

それから、吹奏楽も現状では部活動指導員の方に入らせていただいておりますが、その調整を含めて活動ができればというところです。

ですので、地域の方の中にこういった人材がいるのかといったことを把握して、その人たちに参加していただき、指導者として協力をいただく、生徒は平日に部活動、休日は地域クラブ活動に参加して、学校とはもちろん連携して、情報共有をしていくということになるのかなと思います。

制度上は平日の部活動と休日の活動で違う活動しても構わないので、平日は陸上やって、週末は吹奏楽をやるという生徒も出てくるのかもしれないなと思っています。

大まかに言うところこんなイメージができるのかなというふうに思っています。

一番問題なのが指導者の確保なのですが、あくまでも想定なので、資料はどういった人を対象に指導者になってもらうかっていうのを思いつくだけ書いてみたものです。

まずは公募って書いてありますが、リストアップなり指導者を募らなくてはならないので、まずは、現職の先生、退職された先生、そういった方に入ってもらって、それから地元に住んでらっしゃる方で競技や指導経験がある方、さらに、地域によっては地域おこし協力隊を雇うということも事例集の中ではあります。言い替えれば、会計年度職員としてコーチを雇うやり方もあります。他には民間会社に指導者の派遣を委託するというやり方をしているところもある、もちろんお金はかかります。それから、協力（企業）というのは、例えばうちの村であれば大塚製薬と包括連携結んでいますが、そこは長距離のクラブを持ちアスリートの方もいらっしゃるの、例えばオンラインで指導なんかをしていただけないのかなとか、こんなこともやっていけるかなと思います。

指導者が1人しかいないと来られない日があるとか、まんどに参加できないということもあるので、全体的には複数人いないとまらないかなという感じです。

活動場所の確保というところは、これは村の施設や学校も開放してということで、お金かからない形で使えたらいいなというふうに思っています。

大会のほうは、学校のほうと連携し、どんな大会にできるかというところは学校と相談しながら決めます。

地域移行というものを理解していただくために地域の方には、ホームページですとか、生徒や保護者へはいろんなプリントやら説明会などで周知していくことになるかなと思います。

また、費用負担のところ大きな課題となっていて、先ほども言いましたけど、実費程度をご負担いただいているというのが現状です。ですが、これからは基本的に指導者もボランティアではないので、お金を払わなければいけません。それから、クラブの運営費もありますので、会費を取って対応していかなければいけない。そうすると、年間いくらくらいになるのか見当もつかないのですが、何千円とか何万円とかいうふうになってくることが考えられると思っています。

繰り返しになりますけど、受け皿、指導者、費用負担、この3つが大きな課題かなというふうに思っているところです。

最後になりますけど、令和6年度部活動検討会議としての6年度の予定としては、先ほどお話した地域移行の一部試行実施の調整をすることと、予算をつけていただいたので陸上部と吹奏楽部に部活動指導員を配置し、地域連携は引き続き取り組んでいきたいというところ です。

あとは、道教委のほうに地域移行の専門アドバイザーという方がいらっしゃるので、どこかの時点でこの方に来ていただいて鶴居村に適した地域移行のあり方ですとか、改めて細かいところも含めてご助言いただこうというふうに思っているところです。そういったところを踏まえて住民等に周知していきたいなと思っています。

ここまで、現状までの取組と課題と理想の姿というところをご説明させていただきましたので、この後、意見交換をお願いしたいと思いますが、私の方の勝手なお願いで恐縮なのですが、できればスポーツ、文化に親しむ機会どう確保していくのかなとか、子供にとってどうあるべきなんだろうとか、指導者の確保難しそうだけどこんなふうなことができるかねとか、お金どうしたらいいだろうねだとか、そんなところでもしご意見とか疑問点とかあればお話いただければなど、そんなふうに思っております。

説明は以上です。

(大石村長)

今、村上教育長の方から一連の部活動の地域移行について、国の考えやあるいは先進事例のお話、そして鶴居村がこれからどうするかということをお話いただいたところです。去年もこの地域移行についてはいろいろ議論をさせていただいたところですが、いよいよこれからより具体的に物事を進めていかなければならないところに来たところです。取り組んでいかなければならないテーマや課題がたくさんありそうな気がするところですが、委員の皆様にも気になることとか、ご意見があれば伺えたらなと思っています。

今教育長からお話ありましたとおり課題としては、運営主体をどうしていくか、あるいは指導者の確保、あるいは今後の費用負担、こういったところの心配もたくさんありますけれども、教育委員の皆様からお話いただければと思います。

(高橋委員)

あまりにも課題がたくさんでどうやって解決していいのかわからないですね。吹奏楽やなんかは単独の中学校で活動しているわけですけど、仮にやりたいスポーツがこの地区になくて、ほかの地区と連携しなきゃならないっていう場合は、スポーツクラブとしては今度各町村の教育委員会同士の連携を取るようになるのか、また野球もサッカーも何人か他の地域に越境してチームを作ってる子がいると思うんですが、どういう位置づけになるのか、また、一番の課題は指導者の確保で、ほかの地域から高い報酬で専門の人を月に何度呼ぶとかそういうことをしなければならぬ形になるのだろうか、そして、子供の人口の推移を見て、あまり長いスパンで物事を考えてもこんなに子供の数が減っていくんだと思いました。

地域移行にすることによって先生方の働き方改革にも繋がると思うのだけど、主体はやっぱりこういう小さい地域だとどうしても、今までやっていたように学校の先生に指導者として手伝ってもらう形になるのではと思います。

(村上教育長)

まず、野球やサッカーは、現状でもスポーツ少年団なんかは他の地域の方と一緒に合同で活動をしているので、おそらく、野球をどうしてもやりたいとなれば合同でやらないとならないですね。今は合同クラブに参加して、中体連かなんかに出る時は学校名で出ること、学校の先生が引率しているという形で、その延長線上になるとは思っています。しかし、他の教育長さんとも話していますけれど、町村をまたいだ合同部活動は難しい。同じ町村の中学校の合同部活動なら1つの仕組みなのでやれるのですが、そこはご心配のとおり難しさはあるなと思います。

子供の数が減ってきたらやりたいスポーツもできなくなって、町村合同でやるというのも難しく、現状も中学校になると部活動3つしかないの、それ以外の活動をやりたい子供は親が釧路市に連れてってクラブに所属するという現状でもあるので、多分その延長線上になっていくのかなと思います。

子供のニーズのアンケートを取ったのですが、やりたいことはバラバラなんですよ。私はあれがやりたい、私はこれやりたいという要望になかなか全てに応えることはできない。ましてや人数が減っているとどうしても絞り込んでいかなきゃいけない現状です。

(藤原委員)

課題が多くてどうすればいいのかなと思いました。

子供のアンケートを見させてもらって、本当にやりたいことはバラバラだなんていうのと、部活動なので、小学生とか小さい学年には遠い話なのかもしれないですけど、活動の目的として生涯健康でいるための生涯スポーツとしての見方、親として子供にやらせたい、子供自身がやりたいっていうのと、もうちょっと多分学年が上がってくると、自分の可能性を試したいとか、より良い成績を残したいとか、人や年代によって性質というか目的が大きく異なるんだろうなと思いました。

いろいろな観点で課題はあるんですけど、なんか一番多分引かかっているのが目的のかなという気もして、例えば同じバレーボール部ができましたってなった時に、そこに行くのが楽しく友達ができたり人間性を高められますよってという目的の部活と、より得意な指導者がついて意識が高く上を目指していきましょっていうクラブが2つできた時に、やっぱりこっちに入りたいな、あっちに入りたいなっていう人が出てくるのかなと思いました。これから先地域クラブ活動に向かう時も大きなテーマになるし、それを失って進むとちょっとごちゃごちゃしてしまうのかなと。

あと、指導者の確保について、指導者が居て、その人の得意種目が卓球なのかなんなのか、

それに合わせて種目を決めていくのか、現在鶴居村にあるバレー、サッカー、カルタに携わってくれる人を募るのか、将棋でもなんでもいいので何か教えてくれませんかと募るのか、そういう呼びかけの仕方次第で指導者の手の上がり方も違うのかな、なんていうふうに思い、どういう方向になるのかなと思いました。

(村上教育長)

前半お話いただいた、いわゆる競技志向と楽しみ志向についてなんですが、これは5、6年生のアンケートなんですけど、クラブ活動の目的について見てみますと「スポーツや文化に親しみ楽しむこと」「大会やコンクールで良い成績を取りたい」がほぼ同数なんです。これが中学校になると「大会やコンクールで良い成績を残したい」が圧倒的に多くなるんです。体力技能を向上させて、年齢が上がると競技思考が強くなっていく、当然一生懸命やればより良い成績取りたいって思うのが当然かと思います。

こういう志向の違う子供たちが1つに集まった時に、ちょっとここら辺の温度差みたいなものをどうやって調整していったらいいんだろうねというのは結構検討会議では話題になっているという状況です。

ただ、こういう向上心は大切なことだから、部活動の意義っていう面でこういうのは無下にできない一番の意義だと思うので、そういったところは大切にしたいなというふうに思いますけど、ここら辺も指導者で結構変わってくると思われまます。

指導者のほうですけど、最初お話しがあった指導してくれる人に合わせてそれに参加するという方法もちろんあるのですが、当面は平日に部活動をやってるので、その延長線上で土日に活動するというのを考えると、現状の部活動を土日に教えられる人を探すっていうのがまずは最初かなと思っています。

陸上とテニスと吹奏楽の指導者をまず見つけて、土日に活動してもらって、可能であれば平日の活動の指導までしてもらって、さらにそれに加えて、こういうのやりたい人いませんかっていうのを新規に募ってもいいのかなっていうふうに私は思っているんですが、そうすると全体の人数が少ない中でクラブが分散してくると成り立つクラブも成り立たなくなるというちょっとジレンマがあり、そこらへんはちょっと難しいかなと思っています。

先ほどの人口の推移というか、児童生徒の推移は今現に村にいる赤ちゃんから小学生までの人数から推測しているので、多分転入してくる子供もいて、今までの流れを見ても生まれてくる子供よりも小学校入学の子供が多いので、きっと人数はあそこまで極端には下がらないかと思います。それにしても今後各学年25、26人いるっていうのは難しいかなと思うので、そういったことを検討しながら考えていかなければいけないなというところでございました。

(坂本委員)

さっきの長与町の映像にもありましたけど、学校の先生が今部活動の指導をしていて、実際に先生自身は経験したことがないスポーツを指導している場合もあると。地域クラブになったら専門家が教えられるっていう話もあったんですけど、そうなった場合、生徒が日常教えてもらっている学校の先生の指導と、地域クラブの専門的な指導との違いに最初戸惑うんじゃないのかなと思いました。専門の人は、熱血指導じゃないですけど、本当に専門を追及していくと思うので、それに子供たちがちゃんとついていけるのかなっていう心配があるかなと思います。

(村上教育長)

おっしゃる通り、実は鶴居中のテニス部も陸上部も顧問の先生は競技経験がないんですよ。ただ、競技経験はないけれど、他の学校でもそれぞれの部活を持っていて指導経験はあるんです。そういう意味で専門性っていうところは、ずっとついて回る問題です。なので、活動の方針等を学校としっかり打ち合わせをしてやってかないと、部活の先生が言ってることと地域の指導者が言ってることが違ったりということになるので、その打ち合わせは厳密にやらなければいけないと思います。

また人によって指導の仕方や熱の入り方にバラつきがある可能性もあるので、研修と言いますか、今の教え方のことを学んでもらう機会も作っていかないと、地域クラブ活動の指導してもらうのは難しいと考えています。特にスポーツ系は結構科学的な根拠に基づいた指導っていうのが今学校では行われているので、私の時は「うさぎ跳びから始まって」とかありましたけど、そういう指導にはならないようにしていかなければならないと思います。

(藤原委員)

事務局を教育委員会で行うという話でしたが、現状の社会教育課の方にさらに事務局の仕事を増やしてやることになると思うので手回らなくなるのではと思いました。事務局の仕事量の多さもさることながら、人と人を繋げたりとか、そういう調整をするのは大変なことだろうなと想像すると、人手だったり、もしくは人を雇うにはお金だったり、そういうことも必要になるのかなっていう想像をします。ぜひ頑張ってください。

(大石村長)

素晴らしいご意見ありがとうございます。

(村上教育長)

はい。人手と経費はかけざるを得ないと思います。

(大石村長)

今一通り皆さんご意見伺ったところですけども、私もこの部活動の地域移行って話を前から聞かせてもらって、確かにこの児童生徒数の減少や働き方改革というサイドからもこういう動きが出てきているわけですが、やっぱり子供中心に物事を考えなきゃいけないだろうし、先ほどもあったように、成長していく過程の中で、やはりより高みを目指していく、そういう子供たちの成長に悪い影響をあたえるような部活動の地域移行ではあってはならないなという思いを強くしているところです。

先月町村会で、道教委の担当する局長だとかが来られて、この話も管内全体で聞かせてもらいました。そこでもやはり子供中心に考えなければならないといった話を随分してきたところです。

子供たちに悪影響をあたえるような部活動の地域移行ではあってはならないなというところと、教育長も心配していた経費の問題だとかいろんなことあるんですけど、全部を保護者の負担にはできない、かと言って市町村ですべて負担という話にもならないので、これはやっぱり全国、道内一円でやる話ですから、国や道から一定の支援が無いと前に進まないという話はしたところです。

平日の指導と週末の指導という話もあって、教育的な要素も入ってくるころではあるので、そこはやっぱり指導が一定に繋がってないとまずいところですし、教育長も、今こうして教育委員会主導にならざるを得ないというところで、教育委員会が中心となって地域の方々の支援を求めながら進めるということで、鶴居村にとってはそれしか方法はないのかなという気はしているところです。

そうなると地域からの人材で本当に全てが賄えるかと言ったら、なかなか忙しい人がたて対応する話で、出られる日と出られない日があったり、いろんなケースが想定されるところです。そう考えると、スポーツと文化という両方あるところですから、1人の人材で用足りるか、やっぱりしっかりとした指導者的な役割を果たせる人材がいた上で地域の方々に協力を求めることも必要だろうなという気がしているところです。

また、地域移行によって市町村間の格差が生まれてもこれはまずい、これは子供たちのためにもならないし、やはり同じレベルでこういう指導ができる環境がなければならないというのを考えると、やっぱり一定の指導できる立場の方が、地域だけでなく、専任的な立場で居てもらわないと困るのではないのかなと思います。全てが全て教育委員会とか地域だけで対応するっていうのがかなり限界を感じるころだと思うので、この令和8年の本格的な移行というところに向けて、指導者を、将来に向けて秀でる人を確保することが必要になるのかなって気はするところです。

これは経費がかかるところですけど、子供の将来とか地域のスポーツ、文化を発展させる意味でも、そういう人がいるべきじゃないのかなって気はしているところです。地域に移行するというタイミングを捉えながら、子供たちばかりではなくて、この地域社会に、地域にとってそういう方がいることが非常に重要ではないかという気がするところで、地域に

合わせてこの市町村のスポーツ、文化、そういったところの振興に繋げるようなこともやっぱり考えていかないのではないかなと思ひ、また、そういうやり方をしながら地域全体で指導者が生まれてくるような、環境づくりというものが鶴居村にも必要なかなと、今日皆さんにお話を聞かせていただいた上であらためて感じたところでした。

現在、管内でも厚岸町と標茶町が先行して取組を行っているということですが、これからこういった取組をしっかりと進めていかないとならないというところでもありますので、課題もたくさんありますけども、前に進めていかなきゃならない大きな課題です。やはり子供中心に、子供たちの成長に繋がるような配慮が十分なされる中で進めていかなければならないと思っているので、一步一步前に進めるしかないのかなというように思っております。

他にあらためて何かありませんでしょうか。

(高橋委員)

指導員を仮に依頼すると、報酬等はその指導する人の役職とかそういう立場で制限や影響は何かないのか。土日の休日のアルバイトとか、そういうものには抵触してないものか。

(村上教育長)

一応教員は兼職兼業っていう許可を教育委員会ができるのでいいのですが、例えば公務員系の職場の人、役場の人とかも兼職兼業となったらやっぱり役場で許可しなければいけないし、勤務時間中の問題もあります。

教員は勤務時間中も年間 80 時間までいってという方針を国が出したので大丈夫なんです。しかし、消防署だとか自衛隊だとか、そういった方を活用しようとなると、かなりそういう制限は確かにあると思いますが、制度上は手続きさえとれば何とかなるということになっています。

民間の方もそうですが、それぞれの職場があるので、職場の中でのバランスもあるでしょう。

(大石村長)

今日は部活動の地域移行を中心にお話をさせていただいているところではありますが部活動の話はここまでさせていただいて、いい機会ですので、ほかに何かあれば忌憚のないご意見を聞かせてほしいと思います。教育行政をはじめ村行政も含めて何かございませんでしょうか。

(高橋委員)

学力調査について、全体がそんなに下がってるわけではないんですけど、上と下で少し開きが大きくなってきたと聞くので、今までも学習支援の課題については村から援助していた

だいて結果も出ていますが、これからも中身の充実ということを継続してもらい、また要望には村長さんにも応えていただけるようお願いしたいです。

(大石村長)

教育委員会の方でそのことについては十分配慮されていると思いますが、なんとかそこは後退することなく教育現場の支援を続けていきたいと思っています。学力は少し開いてきているんですか。

(村上教育長)

どうしても2極化っていうところは鶴居村だけの問題ではなく出てきています。

(藤原委員)

全く話が変わるんですけど、去年、暑い夏を過ごして、これから地球がそうなるのかなって心配する中で安心して学校にお家から行ってらっしゃって送り出すことができるということが大切なことだと思っています。その中で、冷房等で過ごしやすい学校の環境づくりに予算や今後の見通しだったり迅速に対応していただいている、保護者からも、来年安心して学校にやれるねっていう声も聞こえてきたので、この場を借りてありがとうございますとお伝えしたかったことが1点です。

各校の校長先生に学校ではこんな教育をしてますというお話をさせていただく機会があったのですが、全部の学校から「鶴居びと」の育成に取り組んでいると聞き、そういうことがすごく浸透してるんだなと感じました。

村長の鶴居スタイルや、鶴居ならではのということが実際に子供議会だったり、総合的学習で子供たちが選ぶテーマが「鶴居の自慢」だったり、「鶴居ならではのこと」だったりというところを目にして、本当に浸透してるなっていうことを感じているところでした。農業や酪農の町っていうことから、観光のこととか、ビールやタンチョウといったことや道の駅がどうなんだってことまで考えている子供たちが育っているということも嬉しかったし、そこから育った子供たちが将来村に残るかどうかはまた別としても、そういう思いを持っているので、ぜひこれからも教育部門に関わらず村をあげて、総合的に盛りあげていただけたらなっていうように思いました。

また、保健福祉課の方々がとてもと親切に対話して、1人1人のお母さんとか、子供の性格とかをわかりながら対応してくださっていて、保育園に上がり、小学校に行くと、こういう流れがとてもありがたく、すごく素敵だと思います。

校長先生をはじめとした管理職の方は割と鶴居のことを多分教育長からも鶴居はこうだって指導されているんでしょうが、子供たちに直に指導するのは担任の先生だったりするので、若い先生や新任の先生の村への愛情と、子ども達の村への愛情とでは違いがあると思うので、ぜひ新たに村に来た時にそういう先生方に鶴居村ってこういう村です、こういう子育てをし

ていますというのを村の職員や村長さんからもお伝えいただく機会を作っていただけると、もっとうまく回っていくのかなと思ったりしています。

(大石村長)

まず、去年は本当に暑いなかで、子供たちも大変だったということですが、今回はスポットクーラーを配備し、保健室はエアコンつけるということになったんですけど、まずはこれで凌いでいただくということで、この先のことはもう少し様子を見たいなと思っているところですよ。

气象台の方の話によるとまだ今年も結構な暑さになりそうという話をしていましたので、去年のことを思い出しながら、しっかり対応していかなければならないなというように思っているところでした。

それと今「鶴居びと」のお話で、教育長にもこの「鶴居びと」のことを非常に重視していただいて、模擬議会とか、ふるさと創生の取組だとか、いろいろふるさとを知るというところでまた繋げていただいて、子供たちにもいい成果が出ているのかなと思っているところです。模擬議会などの子供たちの質問など見ていると、本当に大人顔負けのような素晴らしい内容で、地域をよく見て過ごしてくれているなということは感じているところでもあります。

「鶴居びと」って言葉はコロナの感染が始まった頃にスローガンとして掲げたところではあったのですが、この「鶴居びと」という言葉で、子供たちがしっかりとこの地域のことだとかふるさとを思ってもらえるということに繋がっていくというのは非常に良いことだなと思っています。引き続きこころをしっかりと進めるよう村としても工夫をさせていただきたいなと思います。

先生方には7、8年ぐらい前に村研だったかの場で鶴居村の様子だとかを直にお伝えしたことがあります。いろんなことで鶴居の様子を知っていただきながら、子供たちの指導に当たってもらおうというのが大切なことだと思うので、機会があればそういう場面も私も考えていかなければならないかなと思っているところです。

(坂本委員)

鶴居村に限らず、やっぱり日本人って英語が苦手じゃないですか。鶴居村にもせっきやくALTの先生がいるので、本場の英語に関わる時間がもっとあれば学力向上につながるのではないかと思います。

(大石村長)

英語は今時点でもそうですが、英語を話せる人材の成長が非常に大切で、我々もそうだけど本当にもう英語喋れないと今の国際化の時代のなかでコミュニケーションが非常に厳しいものがあるところで、どうでしょうか教育長。

(村上教育長)

今年12月議会でも質問いただいていたし、子供議会でも国際交流について、そういった投げかけをいただいたので、ちょっとそういう機会をどういった形で用意するかというのを検討させていただきたいというようにしております。この間ちょっとお話しした教育推進計画っていうものも4月から作り始めるので、その計画の中で国際交流だとか、英語との関わりだとか、どんなことができるのかというのも計画作りをさせてもらって、キャンドゥリストではないですけど、どの時点でどうやって、どこまで英語を身につけていくかというようなことも考えて、単発でイベント的なものではなく、仕組みとして英語を身に着けていけるようなものにしたいなというふうに思っておりますので、時間をいただき検討させていただき、また教育委員会議会で相談させていただきたいなと思っております。

4. その他

(総務課長)

本日の会議内容の公表について、申し上げます。総合教育会議の取り扱いとして、会議の透明化を図るために議事録を作成して公表することとされています。

本日の会議につきましても、要約して村のホームページに掲載しますので、ご承知おき願います。以上です。

5. 閉会

(総務課長)

長い時間にわたりまして、いろいろご意見どうもありがとうございました。

閉会にあたりまして、大石村長よりご挨拶申し上げ、この会を閉じさせていただきます。

(大石村長)

長時間にわたりまして意見交換をさせていただきましてありがとうございます。

今日は部活動の地域移行というところをメインにさせていただいて、いろいろとお話をいただいたところですが、部活動、学校教育の大きな転換をこれから迎えていくところで、教育委員会を中心とした中で、この取組が後退することなく、子供たちの成長に繋げていかなくてはならないと、今日改めて私も思ったところです。

冒頭でお話しましたように今年1年かけまして、幌呂小学校、中学校閉校に向けて進んでいくということですので、スムーズに閉校、統合の準備をしっかりと支えていかなければならないと思っております。

地元地域にとりましては、両方の学校がなくなることを大変大きな課題として捉えられているところですので、これは教育にとどまらず地域の今後のあり方も村としては考えていかなければいけないと思っておりますので、この点につきましてもよろしく願いしたいと思っております。

村の予算も先週の定例議会で全ての予算を承認をいただいたところですので、教育環境につきましても、4月から新たな気持ちで、これからの小中学校の教育の充実、そして社会教育の発展に結びつく取組を進めていきたいところですので、引き続きご指導のほどよろしくお願ひしたいと思っております。

あらためて今日は長時間にわたりまして、いろんな意見交換をさせていただいたことに感謝申し上げます、大変措辞ですが、閉会に当たっての挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

以上